

インターバンクの声（2016年6月21日）

英国の欧州連合(EU)残留支持を訴えていた女性下院議員が殺害された後の週末の世論調査では、残留支持派が勢いを盛り返していることが分かった。英ポンドは先週の後半、離脱派が残留派を上回る世論調査が発表された頃には1.40ドル台割れ寸前まで下落していたが、昨夜は一時1.47ドル前後まで反発している。世界的に投資家のリスク回避姿勢がかなり緩和されたのだろうが、反発幅が大きくなっているだけに、週末に離脱派が勝利するようなことになれば、再び強烈な下落があることも覚悟しておくべきだろう。残留派の優勢が伝わればユーロにとっても好都合な筈だが、ニューヨーク市場の終盤は小幅ながらユーロは下落している。週明けの東京市場では、先週末のニューヨーク市場の終値から円安方向に小窓をあけて取引が始まったドル/円だったが、昨夜は結局103円台まで円買いが進んでいる。ドル/円にとっては、英国がEU残留に傾きつつあるニュースよりも今晚のイエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長の議会証言が気になっているのだ。イエレン議長も英国の国民投票の結果が気になっていることを明かしており、議長が7月の利上げも見送る発言でもすれば、週末を待たずに一気に100円に迫る可能性もありそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。